
八千代町第6次総合計画

基本構想(案)

令和2年10月

八千代町

パブリックコメント資料

【はじめに】	1
1 策定の趣旨	2
2 構成と期間	3
3 これまでの取り組み	5
4 時代の潮流	7
5 町民の声	10
6 今後の課題	13
<hr/>	
【未来ビジョン（基本構想）】	17
1 まちの将来像	18
2 まちづくりの目標	19
3 将来人口フレーム	24
4 土地利用構想	27

【基本計画】

第1章 施策分野別計画	36
基本目標1 豊かな自然の中で、安全・安心に暮らせるまち	37
基本目標2 誰もが健康で、いきいきと暮らせるまち	51
基本目標3 未来につなぐ、八千代人を育むまち	65
基本目標4 地域の特性を活かした、働きやすいまち	79
基本目標5 みんなで創る魅力あるまち	89
第2章 第2期八千代町まち・ひと・しごと創生総合戦略	
第3章 総合計画の取り組み	

【資料編】

- 1 計画策定の経緯
- 2 諮問・答申書
- 3 総合計画審議会設置要綱
- 4 総合計画審議会委員名簿
- 5 策定委員会・策定専門部会名簿 ..
- 6 八千代町の状況
- 7 住民意向調査結果の概要

はじめに

〈はじめに〉

1. 策定の趣旨

本町ではこれまで、「八千代町第5次総合計画」のもと、「人・地域 ともに輝く 協働のまち 八千代」の実現に向け、協働を基本とする様々なまちづくり施策を推進してきました。

また、長期的な人口動向と目標を示した「八千代町人口ビジョン」と、その課題である人口減少の克服、地域の活性化に向けた具体的な取り組みを示す「八千代町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、町の現状にあった定住促進策など、戦略的な施策に取り組んできました。

しかしながら、人口減少と少子高齢化はさらに進行し、社会経済情勢は変化し続け、行政に対するニーズはますます多様化・高度化しています。

さらに、東日本大震災や関東・東北豪雨などの想定を超えた自然災害が多発し、町民の命と暮らしを守る取り組みが強く求められる時代となっています。

八千代町第6次総合計画は、町民とともに積み重ねた様々な経験を活かして、新時代の課題克服に取り組むための目標を定めるとともに、八千代町の魅力を最大限に活かしたまちづくりを進めるための町政運営全般の指針となるものです。

2. 構成と期間

八千代町第6次総合計画は、町政運営全般についての指針となる町の最上位の計画として位置づけ、「未来ビジョン（基本構想）」と「基本計画」および「実施計画」から構成します。

《未来ビジョン》

総合的かつ計画的な町政運営をはかるための基本的な構想であり、本町が目指す将来像を示し、将来像を実現するための基本的な方向性を明らかにするものです。

未来ビジョンは令和3年度（2021）から令和12年度（2030）までの10年間とします。

《基本計画》

未来ビジョンを実現するための町政全般にわたる施策の基本的な方針を示すものです。

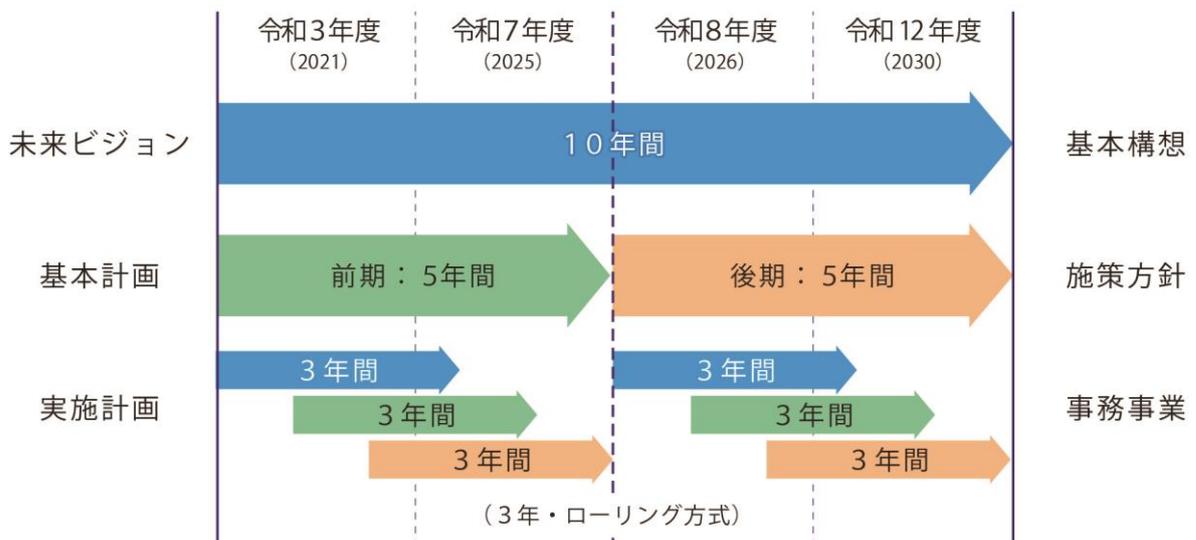
基本計画は5年間とし、前期は令和3年度（2021）から令和7年度（2025）までとします。

《実施計画》

基本計画に掲げた施策を推進するための事務事業を定めるものです。

実施計画は、期間を3年間として、毎年見直しを行います。

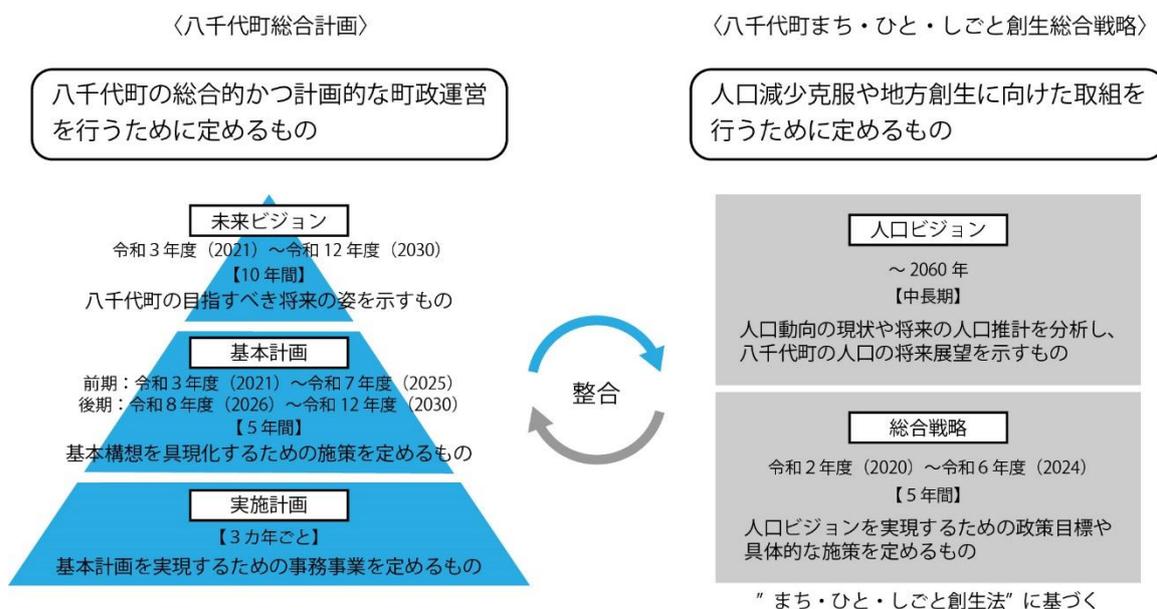
【未来ビジョン・基本計画・実施計画の関係】



《総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略との関係》

平成 26 年（2014）に地方創生を目標とする「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。本町では、これに基づき、長期的な人口の動向と将来目標を定めた「八千代町人口ビジョン」および課題である人口減少の克服と地域の活性化に向けた具体的な取り組みを示す「八千代町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、町の現状にあった定住促進策など、戦略的な施策に取り組んできました。

「第 2 期八千代町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、令和 2 年度（2020）からの 5 年計画として、最上位計画である「八千代町総合計画」との整合を図りながら推進するものです。



3. これまでの取り組み

本町では、平成 23 年 3 月に平成 32 年度（令和 2 年度）までの 10 年間の計画として八千代町第 5 次総合計画を策定し、「人・地域 とともに輝く 協働のまち 八千代」の実現に向けて、総合的かつ計画的なまちづくりを進めてきました。

(1) 誰もが健やかに安心して暮らせるまち（健康・福祉）

誰もが、住み慣れた地域で、生涯にわたって健やかに、生きがいを持って、安心して暮らすことができるまちを目指し、健康教室の実施や生活習慣病の改善を目指した特定健診の受診を積極的に支援してきました。

また、次世代を担う子どもたちへの支援として、高校生までの医療費に対する助成や出産子育て奨励金の支給を行っています。

(2) 緑豊かで、安全・快適な生活環境のまち（生活環境・都市基盤）

豊かな自然環境とともに、安全で快適に暮らすことができるまちを目指し、各地域の避難所の整備や防災備蓄倉庫の整備など、防災体制を充実させるとともに、鬼怒川の堤防工事を推進するなど、災害に強いまちづくりに努めています。

また、幹線道路の整備や橋りょうの長寿命化をはかるとともに、予約型のデマンド交通の運行を開始するなど、地域の実情に応じた町民の輸送サービスの実現に努めています。

(3) 町に愛着を持ち、意欲あふれる人を育むまち（教育・文化）

町や地域を学び、誇りと愛着を持ってまちづくりに意欲的に取り組む人を育てるまちを目指し、八千代第一中学校、東中学校の校舎と給食センターを建設し、小中学校にエアコンを導入するなど、町の未来を担う子どもたちの教育環境の整備を進めてきました。

また、公民館での各種講座の充実や図書館の蔵書を増やすなど、生涯をととして学習できる環境整備にも努めています。

さらに、令和元年度に茨城県で開催された国民体育大会では、ビーチボールバレーの普及に努めるとともに、各種スポーツ団体の支援にも努めています。

(4) 交流・連携で広げる、にぎわいと活力のあるまち（産業）

基幹産業である農業を軸に、工業や商業、観光など様々な分野の交流・連携をうながし、にぎわいと活力あるまちを目指し、畑地帯総合整備事業などの基盤整備を進めるとともに、各地のイベントで農産物のPRに努めています。

また、商工業の振興として、新たに八千代工業団地を造成し、立地企業3社の進出が決定しました。

さらに、観光の振興としては、八千代グリーンビレッジやクラインガルテン八千代を活用して、都市部の利用者との交流を深めるとともに、八菜丸（はなまる）をイメージキャラクターとしたPRも実施しています。

(5) みんなで築く、協働のまち（自治・まちづくり）

本町の特色ある地域コミュニティや組織を活かし、発展させ、新たな自治をみんなで築いていく協働のまちを目指し、全町民を対象とした総合防災訓練の実施や各行政区における防犯カメラの設置など、町民が一丸となって、安全・安心なまちづくりに努めています。

また、広報紙やホームページ、SNSを活用して、町からの情報を発信するとともに、町民からも意見が届く双方向の情報共有に努めています。

4. 時代の潮流

町を取り巻く新たな時代の変化に対応したまちづくりを進めていくため、八千代町を取り巻く状況を整理します。

(1) 人口減少社会の到来・少子高齢化の進行

我が国の総人口は、平成 20 年（2008）の 1 億 2,808 万人をピークに減少を続けています。この背景には、出生率の低下による少子化と高齢化の進行があり、この傾向が続いた場合、令和 35 年（2053）には 1 億人を下回ると予想されています。

(2) まち・ひと・しごと創生（地方創生）への取り組み

地方の人口減少に歯止めをかけ、それぞれの地域で住みよい住環境を確保し、活力ある日本社会を維持することを目的に、「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。八千代町でも「人口ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定め、新たな時代の地方創生に取り組んでいます。

(3) 社会経済のグローバル化の進展

情報技術の急速な進歩にともない、社会経済のグローバル化が進展しています。また、国境を越えた生産体制やインバウンド需要など、世界との経済協調関係も深まっています。

一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は回復基調の世界経済に大きな打撃を与え、コロナ禍後の新たな社会経済復興に全世界で取り組んでいくことが求められています。

(4) 地球規模での環境問題への意識の高まり

世界的な人口増大や経済成長などを背景に自然環境に対する負荷が増大し、地球規模での環境問題への対応が急務になっています。

また、東日本大震災を契機に原子力発電や化石燃料に依存しない社会の実現に向けて、再生可能エネルギー活用への取り組みが進んでいます。

(5) 安全・安心に対する意識の高まり

東日本大震災や関東・東北豪雨などの甚大な自然災害が多発し、人々の危機意識が高まり、地域における防災体制の強化が強く求められています。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、日常生活における安全・安心への関心もますます高くなっています。

(6) 価値観やライフスタイルの多様化

人口減少、少子高齢、高度情報化とグローバル化の進展などを背景に、人々の価値観やライフスタイルがますます多様化し、ライフステージに応じた「働き方」「学び方」「楽しみ方」など、多様な選択が可能となる社会づくりが求められています。

また、性別や年齢、国籍などにかかわらず、それぞれの価値観や個性を尊重し、共生していくことの重要性が強く認識されています。

(7) 町民参加と協働のまちづくりへの意識の高まり

地方分権改革や地方創生の推進により、地域の自主性と自立性を高めるため、地域の魅力づくりにみんなで取り組む協働のまちづくりがますます重要となっています。

価値観やライフスタイルの多様化が進むなか、社会貢献意識も高まり、ボランティア団体やNPO法人などによる特色のあるまちづくりが展開されるなど、行政への住民の参画や地域の活性化に取り組む意欲も高まっています。

(8) 厳しい行財政運営

人口減少や少子高齢化が進むなか、税収の減少、老朽化の進んだ施設や道路・橋りょう・上下水道等の維持・管理に要する費用の増大が見込まれ、行財政運営はこれまで以上の厳しさとなることが懸念されています。

また、コロナ禍後の新たな日常を構築し、打撃を受けた社会経済活動の復興に日本全体で取り組んでいくことが強く求められています。

(9) Society 5.0 の推進

我が国が目指す未来社会の姿として、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く超スマート社会「Society 5.0」が提唱されています。

IoT（インターネットとモノがつながる技術）の発展により、様々なヒト・モノ・組織が情報通信ネットワークでつながり、大量のデジタルデータ（ビッグデータ）の蓄積と活用により新たな価値の創生につなげていくことが期待されています。

一方、犯罪やトラブルの発生、情報流出などの問題もますます深刻化しており、セキュリティのより一層の強化や情報教育の充実が強く求められています。

(10) 持続可能な開発目標（SDGs）への対応

SDGs は「持続可能な開発目標」という意味で、2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。我が国でも「実施指針」を定め、地方自治体等による積極的な取り組みが推進されています。

住み続けられるまちづくりや経済成長、気候変動対策など、SDGsが掲げる目標は、自治体の取り組み施策との関連性も高いことから、行政においてもSDGsの理念を強く意識しながら、各施策を推進することが求められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



5. 町民の声

第6次総合計画の策定にあたって、本町の暮らしやすさや町政に対する満足度、今後のまちづくりなどについて、住民意識調査を実施しました。

(1) 住民意識調査

〈八千代町の住みよさ・定住の意向〉

「八千代町は住みよいまちであるか」については、約6割の人が八千代町は住みよいまちであると感じています。

「今後とも八千代町に住み続けたいと思うか」については、約7割の人が今後とも八千代町に住み続けたいと感じています。

〈まちづくり施策の満足度・重要度〉

これまでの取り組み施策で「現在の満足度」と「今後の重要度」を3段階で評価をし、施策ごとで点数化をした結果において、「現在の満足度が低く、今後の重要度が高い」分野の中で、「公共交通対策」「保健・医療サービスの充実」「高齢者や障がい者の福祉の充実」「子育て支援策の充実」「福祉施設を拠点とした在宅福祉サービスの充実」「幹線道路の整備」「生活道路の整備」「工業の振興」が高くなっています。

〈八千代町の誇りや自慢〉

八千代町の「誇り」や「自慢」については、約6割が「自然環境の良さ」と回答しており、次いで「上下水道、ごみ収集などの公共サービスの充実度」「防災、防犯などの水準」などの生活環境が整備されているところがあげられています。

〈八千代町の将来のイメージ〉

「八千代町の将来はどのようなまちになると良いと思うか」については、町の誇りや自慢にもなっている「自然環境の豊かさを活かしたまち」が最も多く、次いで「生活環境の整備されたまち」「交通事故や災害のない安全性の高いまち」が望まれています。

また、八千代町の基幹産業である農業を核とした「農業の振興を中心としたまち」、西山工業団地の拡大や八千代工業団地の整備にともなう企業立地・操業開始による「工業団地などによる工業を中心としたまち」も将来のイメージとしてあげられています。

〈町政への参加〉

「町政への参加」については、「アンケート調査で充分である」が最も多くなっていますが、町政に関わる様々な活動への参加や意見を述べたいなど、6割を超える人が主体的な参加の意向を示しています。

(2) 小中学生アンケート調査

〈八千代町が好き〉

「八千代町が好きですか」については、約7割の子どもたちが八千代町を好きであると感じています。

〈八千代町の住みよさ・定住の意向〉

「八千代町は住みよいまちであるか」については、7割を超える子どもたちが八千代町は住みよいまちであると感じています。

「今後とも八千代町に住み続けたいと思うか」については、3割の子どもたちが今後とも八千代町に住み続けたいと感じていますが、4割の子どもたちは他の町にも住んでみたいと思っています。

(3) 保護者アンケート調査

〈八千代町の子育て環境や子育て支援の満足度〉

「八千代町における子育て環境や子育て支援に対する満足度」については、約4割の人が満足と感じている一方で、同じく約4割の人が不満であると感じています。

不満と感じる点については、「近くに子どもが安心して利用できる施設がない」が7割を占め、次いで「医療体制が不十分である」「子育てに関する経済的な支援が不十分である」が主な理由となっています。

(4) 総合計画の策定にあたっての町民からの意見募集

町民の皆様のご意見を各計画に反映させるため、「あなたの描く八千代町の将来像」、「あなたが参加したいまちづくり」、「今後のまちづくりに対する意見」などについて、ホームページなどのインターネットツールや意見箱を用い、多くの町民の皆様のご意見を募集したところ、次の19の意見をいただきました。

- ・生活環境の景観美化を
- ・都市施設、ごみ問題への長期的な取組方法を
- ・ふれあい交流拠点の強化を
- ・地域の活性化策を
- ・圏央道へのアクセス道路の整備を
- ・公園施設に防災機能を付加し地域協働での運営を
- ・大災害に強い計画の策定を
- ・高齢化社会に対応したまちづくりを
- ・学校給食での地産地消の推進を
- ・農業を活かした住民による地域おこしを
- ・地場産品の販売促進の施設を
- ・有機農業等で食の安全を
- ・耕作放棄地の有効活用を
- ・山川排水路の有効活用を
- ・企業誘致の推進を
- ・町内で自己完結できるまちづくりを
- ・新旧住民での新たな地域コミュニティの確立を
- ・意見箱の設置や懇談会を開催し、町民の意見をまちづくりに
- ・外国人との地域協働を

6. 今後の課題

これまでの取り組みや時代の潮流、町民の意向を踏まえて、今後八千代町が取り組むべきまちづくりの課題を整理しました。

① 安全・安心を約束するまちづくり（安全・安心なまちづくり）

予測を超えた自然災害、弱者が被害者となる事故の多発、コロナ禍以降の新たな日常の確保など、命と生活を守る基盤を整備し、安全・安心な暮らしの確保に向けた環境づくりに町ぐるみで取り組んでいく必要があります。

※住民意識調査（理想の生活環境）では「自然環境の豊かさを活かしたまち」「生活環境の整備されたまち」「交通事故や災害のない安全性の高いまち」が上位となっています。

② 住み続けたいくなる快適なまちづくり（都市基盤整備）

自然との調和を基本とする土地利用のもと、道路整備によるネットワークの強化や、公共交通の充実による快適な移動手段の確保などにより、中心市街地や集落地域の機能を維持し、住み続けたいくなる快適環境整備を進めていく必要があります。

※住民意識調査（発展基盤）では「公共交通対策」の満足度が最も低く、かつ重要度が最も高い施策となっています。

③ 健康で優しさに満ちたまちづくり（医療・福祉）

誰もが、住み慣れた地域で、生涯健康で安心して住み続けることができるよう、地域医療や高齢者福祉・障がい者福祉のきめ細やかな体制の充実をはかるとともに、地域を基本に互いに支え助け合う優しさに満ちたまちづくりに、町民みんなで取り組んでいく必要があります。

※住民意識調査（福祉）では「保健・医療サービスの充実」「高齢者や障がい者福祉の充実」などの重要性が高くなっています。

④ 子どもたちの声が響く、笑顔のまちづくり（人口対策）

人口減少に歯止めをかけるため、住みたくなる魅力的な環境づくりや就業機会の増大など、働く世代の移住・定住の促進をはかるとともに、結婚支援や子育て支援など、安心して子どもを産み育てられる環境のさらなる充実をはかり、親子の笑顔があふれるまちづくりを進めていく必要があります。

※保護者アンケート調査では、子育て支援を「満足」とする回答、「不満」とする回答がそれぞれ3割以上となっています。

⑤ 八千代町を愛し・支える、意欲ある人づくり（教育・人材育成）

すべての町民が、互いを尊重し、支え合う共生社会を目指して、「ふるさと八千代」を愛する教育の充実や、様々な学習の機会と場を創出していくことにより、未来の八千代町を支える意欲ある人材の育成と豊かな交流環境づくりを進めていく必要があります。

※小中学生アンケートでは、7割以上の子どもたちが「八千代町が好き」と回答しています。

⑥ 活力あふれる働きたいまちづくり（産業の振興）

町の誇りでもある農業生産環境の充実、自然に囲まれた工業生産環境の拡充、地域の人や資源を活かした新たな産業の創出など、町で働き、暮らす八千代らしいライフスタイルや働き方の提案などにより、活力あふれる働きたいまちづくりに取り組んでいく必要があります。

※住民意識調査（将来の産業）では「農業の振興を中心としたまち」「工業団地などによる工業を中心としたまち」が上位にあげられています。

⑦ みんなで守り、支え合うまちづくり（協働のまちづくり）

町民の参画と協働によるまちづくりのさらなる充実・成熟化をはかり、八千代町に関わる多様なコミュニティとの連携を深めながら、暮らしに必要な様々なサービスをみんなで支えていく持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

※住民意識調査（定住意向）では6割以上の方が「住み続けたい」と回答しています。

また、町政については、6割以上の方が「活動への参加」や「意見を述べたい」などの積極的参加意向を示しています。

⑧ 健全で効果的な行財政の維持・推進（行財政運営）

税収の減少、福祉需要の増大、老朽化施設の維持・管理費の増大など、町の行財政はこれまで以上に厳しくなることが懸念されていることから、人口減少時代に対応した都市機能の維持・集約として、学校教育施設のあり方や老朽化した公共インフラの再整備の検討が必要となります。

また、総合計画を町政運営の基本指針としながら、健全な行財政の改革に積極的に取り組み、効果的・効率的な財政運営を維持・推進していく必要があります。

※住民意識調査（行財政）では「行財政改革の推進」「広域行政の推進」などの重要性が認識されています。



未来ビジョン〈基本構想〉

〈未来ビジョン〉

1. まちの将来像

【将来像】

「ともにつむぎ ひびきあう 協奏のまち 八千代」

～小さくてもキラリと輝く、みんなのまちづくり～

“人との関わり”、“地域との関わり”、“自然との関わり”を大切につむぎ、織りあげていくこと。

八千代ならではの距離感と親密さのなかで、年齢、性別、職業、地域などあらゆる立場を超えて協働し、日々の暮らしのリズムが響きあい、奏でられていくこと。

これらは、八千代町の誇る豊かな自然と歴史、“ひと”と“暮らし”を未来につなげていくためにとても大切なことです。

この将来像は、少子・高齢時代をしなやかに生き抜くため、これまで積み重ねられた様々な経験を活かし、町民と行政が手を取り合っまちの魅力を最大限に発揮しながら、住んでみたくなるような、そして、いつまでも住み続けたいと思える、みんなのまちづくりを目指していく想いを込めています。

2. まちづくりの目標

総合計画では、まちの将来像を実現するために、5つのまちづくりの目標を設定します。

基本目標 1 「豊かな自然の中で、安全・安心に暮らせるまち」

豊かな自然・田園環境を守りながら、町民の誰もが安全に安心して、快適に暮らせるまちを目指します。

(1) 心地よい自然環境・景観形成

田園空間や河川等の水辺空間など、貴重な自然環境の保全をはかり、町民が快適に暮らせるまちを目指します。

(2) 計画的な土地利用

地域の特性に応じた土地利用を計画的に誘導し、市街地や集落地域で暮らせる環境づくりを進め、住み続けることのできる快適な住環境や生活環境の整った暮らしやすいまちを目指します。

(3) バランスの良い生活基盤

道路や上下水道などのインフラ整備を進め、安全・安心で暮らしやすい生活環境を確保していくとともに、地域経済と暮らしを支える交通ネットワークの確立を目指します。

(4) 暮らしやすい住環境

移住や定住に向けた様々な取り組みや支援を進め、八千代町に“住んでみたい”“住み続けたい”と想えるまちを目指します。

(5) 安心につながる消防・防災

火災や地震・水害などの災害から町民の生命や財産を守り、安全・安心に暮らせるまちを目指します。

(6) 町ぐるみの防犯・交通安全

犯罪や交通事故を未然に防ぎ、町民が安全・安心で豊かな生活を営むことができる地域づくりを目指します。

基本目標 2 「誰もが健康で、いきいきと暮らせるまち」

住み慣れた地域の中で互いに助け合い、誰もが生涯をとおして健やかに、いきいきと暮らすことのできるまちを目指します。

(1) 人生 100 年時代の健康づくり

健康寿命の延伸をはかり、住み慣れた地域で、町民の誰もが生涯にわたり健やかに暮らせるまちを目指します。

(2) 町民に身近な保健・医療

町民がいつでも必要な医療を受けられ、健康に安心して暮らせる環境づくりを目指します。

(3) みんなで支え合う地域福祉

人と人、人と社会がつながり、町民一人ひとりが、住み慣れた地域で、生涯にわたり、自分らしく、安心して暮らせるような支え合う地域社会の実現を目指します。

(4) 安心して暮らせる高齢者福祉

高齢者の社会参加をうながし、いきいきと自立した生活で、住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくりを目指すとともに、介護ニーズに合わせた体制づくりと介護予防の充実により介護負担の少ないまちづくりを目指します。

(5) 自立できる障がい者・障がい児福祉

町民一人ひとりが、障がいの有無によって分け隔てられることなく、互いに人格と個性を尊重し合いながら、ともに生き、安心して暮らせる社会の実現を目指します。

(6) 適正な社会保障制度

町民が生涯をとおして健康でいきいきと暮らせるよう、国民健康保険制度、後期高齢者医療制度、介護保険制度の安定的な運営を目指します。

基本目標3 「未来につなぐ、八千代人を育むまち」

八千代町の未来を担う子どもたちが、自ら考えて生き抜く力を身に付けられるよう、町・地域全体で守り、支え、育てていくまちを目指します。

(1) 守り育む子育て環境

妊娠、出産から子育ての一貫したサポート体制を整備し、子育て世代が安心して子どもを生み育てることができ、子どもが安心して利用できる施設を整備するなど、子どもたちが健やかに育まれる環境づくりを目指します。

(2) 日本で・世界で、未来に向けた人財育成

子どもたち一人ひとりが、グローバル化や情報化など、社会の変化に主体的に対応できる力を身に付け、豊かな人生を切り拓き、未来の創り手となる人財育成を目指します。

(3) 地域で見守る青少年健全育成

青少年が心身ともに健やかに育つよう、家庭・学校・地域が連携をはかり、地域における教育力の向上を目指します。

(4) 生きがいにつながる生涯学習

町民一人ひとりが、豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じて多様に学び、その学習成果を社会へ活かすことのできる生涯学習社会の実現を目指します。

(5) 受け継がれる地域文化

伝統文化の継承や歴史的な資源の保存などをおして、町民の誰もが多様な芸術・文化を身近に感じ、親しむことができるまちを目指します。

(6) 誰もが親しめるスポーツ・レクリエーション

生涯の各期における多様なニーズに対応し、町民の誰もがスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、楽しむことができるまちを目指します。

基本目標4 「地域の特性を活かした、働きやすいまち」

八千代町の発展を支えてきた身近な産業の活性化や成長、産業間の連携などをはかりながら、多様な働き方が実現できる、選択できるまちを目指します。

(1) 持続的な農業の振興

基幹産業である農業を守り・育て、全国における地位向上をはかるため、競争力の強化や販路の確保、高付加価値化などを進めるとともに、東京圏近郊の地理的な優位性を活かし、食品企業などとの連携による農業の発展を目指します。

(2) 地域に根ざした商工業の振興

商業では、商工会などと連携した経営の安定化とともに、新たな創業をうながし、また、工業では、既存企業の操業支援や地元根づく企業誘致などを進め、地域に根ざした活力のある商工業を目指します。

(3) 地域資源を活かす観光の振興

観光資源の魅力向上と効果的な情報発信を行い、通年での誘客をうながし、また訪れたいと思えるまちを目指します。

(4) 働き続けられる雇用

働きやすく安定した雇用の実現により、所得の向上をはかるとともに、就業機会を確保し、働くことを希望するすべての町民が活躍できるまちを目指します。

基本目標 5 「みんなで創る魅力あるまち」

八千代町に関わるすべての人々が、それぞれの立場で役割と責任を担い、互いに協力・協調しながら、まちづくりに取り組む、活気と魅力のあるまちを目指します。

(1) 町民が主役のまちづくり

各行政区などの特性を活かした活動や町民の積極的な参加による地域コミュニティ活動を支援していくとともに、情報の共有化などの取り組みを基本に、「自助」「共助」「公助」の視点に立った協働のまちづくりを目指します。

(2) 誰もが平等な明るい社会

高い人権意識と男女平等意識のもと、すべての人が互いに尊重し合い、誰もが住みやすい地域社会の形成を目指します。

(3) 多彩な交流の推進

都市間・地域間交流をはじめ、国際交流など幅広い交流を進め、多文化共生社会の実現や人々の交流が盛んなまちを目指します。

(4) デジタル社会への対応

高度情報化に対応したシステムを利活用することにより、町民の多様なニーズに適切かつ迅速に答えられる行政サービスの提供を目指します。

3. 将来人口フレーム

(1) 人口の動向

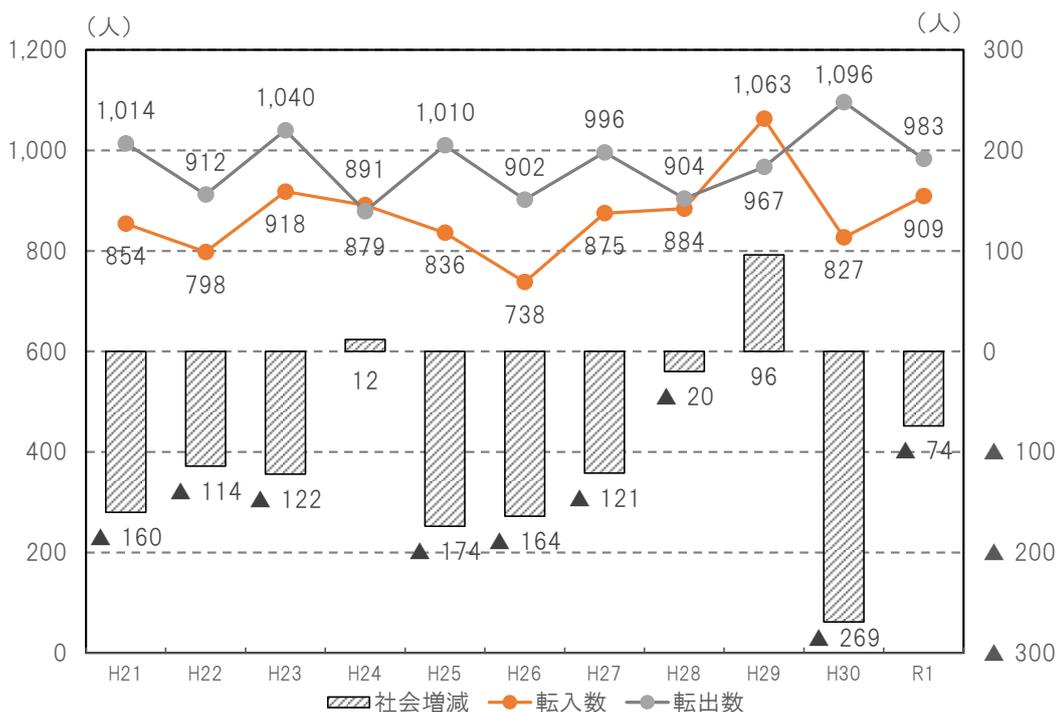
八千代町の人口は平成7年（1995）の25,008人をピークに減少傾向が続き、平成27年（2015）では22,021人となっています。

また、令和12年（2030）の人口は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計（平成30年（2018）3月推計）」の推計では、18,750人になるとされています。（※P26参照）

(2) 社会動態

近年、社会減が続くなかで、平成24年（2012）と平成29年（2017）で社会増に転じたものの、平成30年（2018）には再び社会減になっています。

また、直近5か年の転出数と転入数の差は平均で▲78人/年であり、社会減となっています。

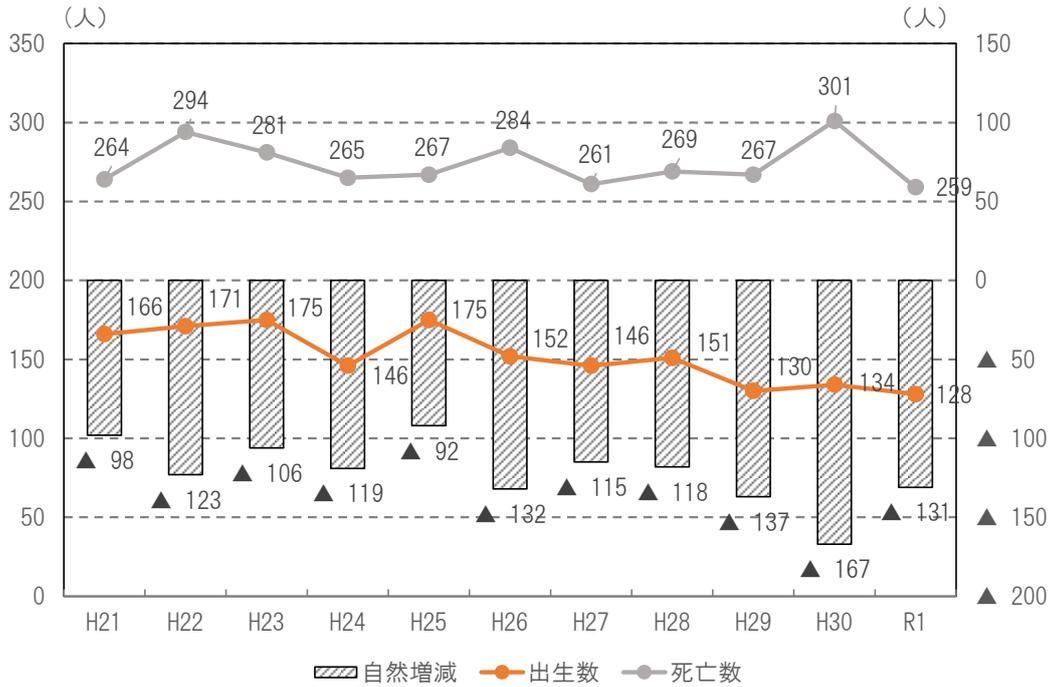


【出典】茨城県常住人口調査

(3) 自然動態

出生数は年々減少しており、令和元年（2019）は128人であり、近年の10年間で最も出生数の多かった平成23年（2011）や平成25年（2013）に比べて26.9%減少しています。

一方、死亡数は徐々に増加してきており、直近5か年の出生数と死亡数の差は平均で▲134人/年であり、自然減が続いています。

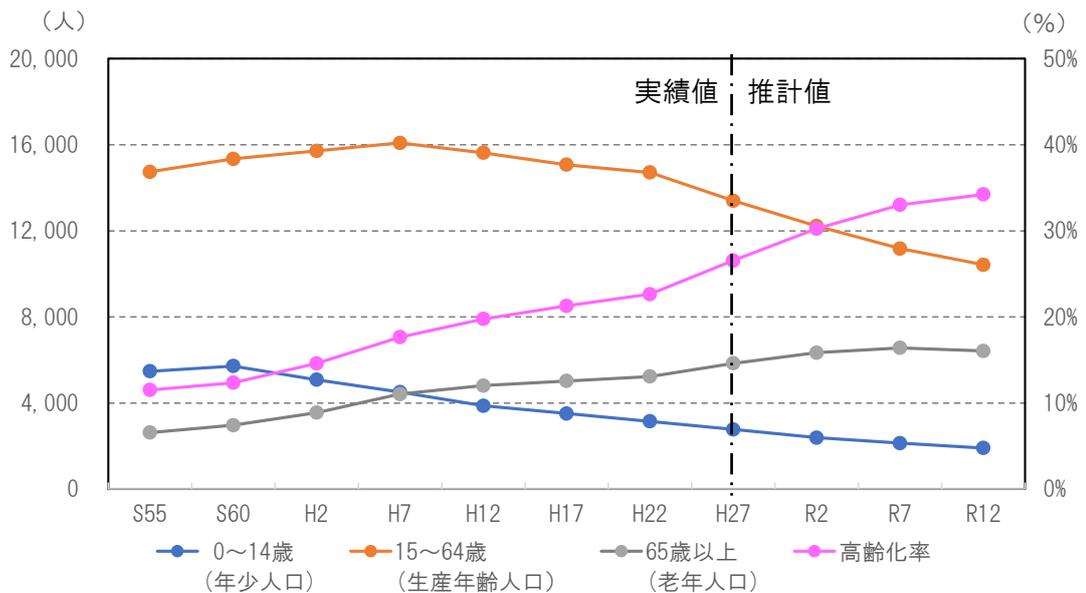


【出典】茨城県常住人口調査

(4) 年齢3層区分別人口の推移

年少人口は昭和60年(1985)以降、生産年齢人口は平成7年(1995)以降減少し続けています。老年人口は、これまで増加し続けてきましたが、令和7年(2025)以降は減少に転じると推計されています。

また、高齢化率は年々高くなってきており、令和12年(2030)には34.2%になると推計されています。



【出典】実績値：国勢調査

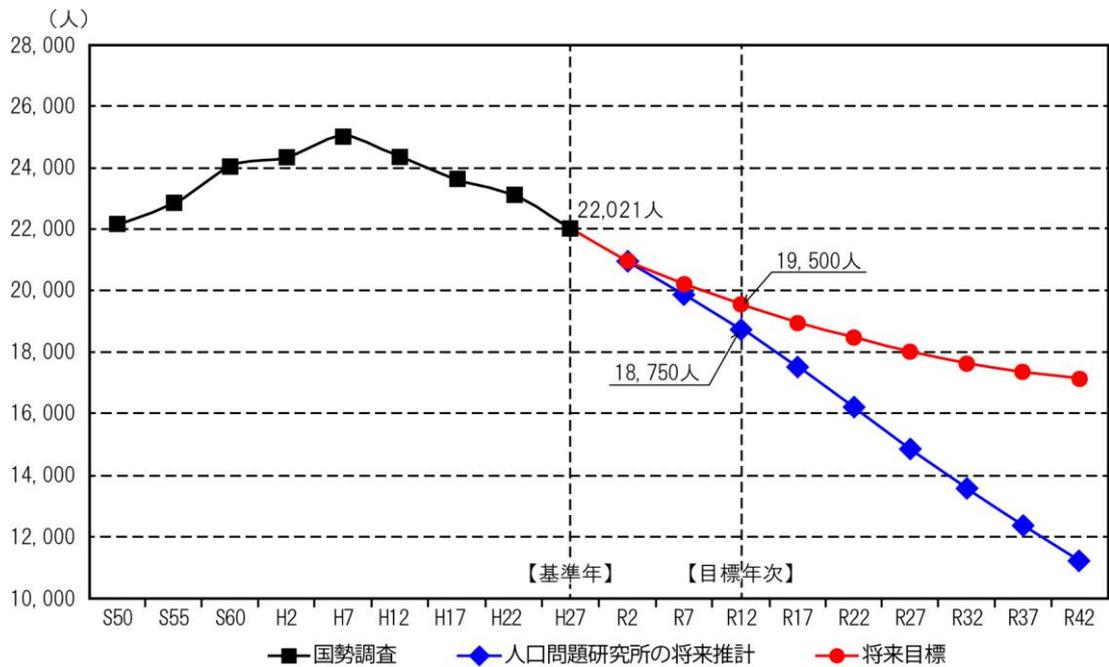
推計値：国立社会保障・人口問題研究所(日本の地域別将来推計値)

(5) 人口の将来展望

八千代町の特性を活かした働きたい、働きやすい環境づくりなどにより、就業機会の増加と雇用の促進をはかるとともに、住み続けられる環境づくりなどにより、町からの転出を減らしていきます。

また、20～40歳代の若い世代の移住・定住の促進、結婚・出産・子育てに関わる様々な支援の強化などにより、出生数の増加を目指します。

こうした取り組みをとおして、令和12年（2030）には19,500人の人口の維持を目指します。



4. 土地利用構想

八千代町は、河川等の水辺や基幹産業となる農業の生産基盤である農地を基調にした豊かな自然環境を有しており、こうした環境は本町の貴重な資源であり、共有の財産でもあります。

こうした環境を守りながら、土地区画整理事業等により整備された市街地と集落地域との役割と機能の分担や農業生産環境との調和をはかりつつ、活力のある土地利用構想を推進します。

本町の目指すべき土地利用（エリア）や活動を支える拠点、軸などの要素を次のとおり定めます。

(1) エリア

○暮らしのエリア

現行の市街化区域内における良好な居住環境の保全・育成をはかるとともに、町民の身近な暮らしに必要な商業・業務などの集積を進めます。

○にぎわい沿道エリア

国道 125 号などの広域交通軸の沿線に商業・業務機能など沿線サービス機能の集積を進めます。

○生産・流通エリア

市街化区域（工業専用地域）である西山工業団地地区のほか、工業系新市街地とする八千代工業団地（菅谷地区）や若地区、水口地区などに、企業集積の維持や新たな企業の立地を進めます。

○農業と暮らしのエリア

市街化調整区域に広がる農地（水田、畑地）と農村集落では、優良な農地を保全していくとともに、集落における良好な生活環境の維持・向上をはかります。

(2) 拠点

○ 中心拠点

町民の暮らしを支える行政機能や商業・業務機能、交流機能等の様々な都市機能が集約する本町の中心的な核としての機能の充実をはかります。

○ 産業拠点

既存工業団地である西山工業団地地区と工業系新市街地の八千代工業団地（菅谷地区）や若地区などに、本町の生産・流通機能を担う機能の充実をはかります。

○ ふれあい交流拠点

八千代町民公園や八千代グリーンビレッジなど、町民をはじめ、本町を訪れる人々が憩い、交流することのできる機能の充実をはかります。

○ 地域拠点

市街化調整区域内においても、各地区の意向や特性を踏まえながら、それぞれの地区にふさわしい日常生活や地域コミュニティの維持・向上をはかります。

(3) 軸

○ 広域交通軸

周辺都市や広域圏を結ぶ国道 125 号や筑西幹線道路、県道結城坂東線など、都市間の交流や連携の強化をはかります。

○ 地域交通軸

町内の拠点間等を結ぶ県道つくば古河線や若境線、高崎坂東線のほか、広域農道、主要な町道となる一級町道 8 号線や 12 号線など、町内の骨格的な道路網ネットワークを形成します。

○ 水と緑の軸

町域東部を流れる鬼怒川におけるサイクリングロードなどの環境整備を進め、豊かな自然環境・景観や親水性を活かした潤いと交流を創出する空間を形成します。

■ 土地利用構想図

